



# BlueXP を使用したAmazon FSx for NetApp ONTAPの管理

Amazon FSx for NetApp ONTAP

NetApp  
November 12, 2024

# 目次

BlueXP を使用したAmazon FSx for NetApp ONTAPの管理	1
Amazon FSx for NetApp ONTAP の最新情報	2
2024年11月11日	2
2023年7月30日	2
2023年7月2日	3
2023年6月4日	3
2023年6月4日	3
2023年5月7日	3
2023年4月2日	4
2023年3月5日	4
2023年1月1日	4
2022年9月18日	4
2022年7月31日	4
2022年7月3日	5
2022年2月27日	5
2021年10月31日	5
2021年10月4日	6
2021年9月2日	6
はじめに	7
Amazon FSx for NetApp ONTAP の詳細をご確認ください	7
Amazon FSx for NetApp ONTAP のクイックスタートガイド	9
ONTAP の FSX のアクセス許可を設定します	9
FSx for ONTAP作業環境の作成と検出	16
FSx for ONTAPファイルシステムの管理	24
BlueXP ワークロードファクトリを使用したファイルシステムの管理	24
ONTAP System Managerを使用したファイルシステムの管理	24
ファイルシステムでBlueXP データサービスを使用する	24
知識とサポート	27
サポートに登録します	27
ヘルプを表示します	31
法的通知	37
著作権	37
商標	37
特許	37
プライバシーポリシー	37
オープンソース	37

# BlueXP を使用したAmazon FSx for NetApp ONTAPの管理

# Amazon FSx for NetApp ONTAP の最新情報

FSx for ONTAPの新機能をご確認ください。

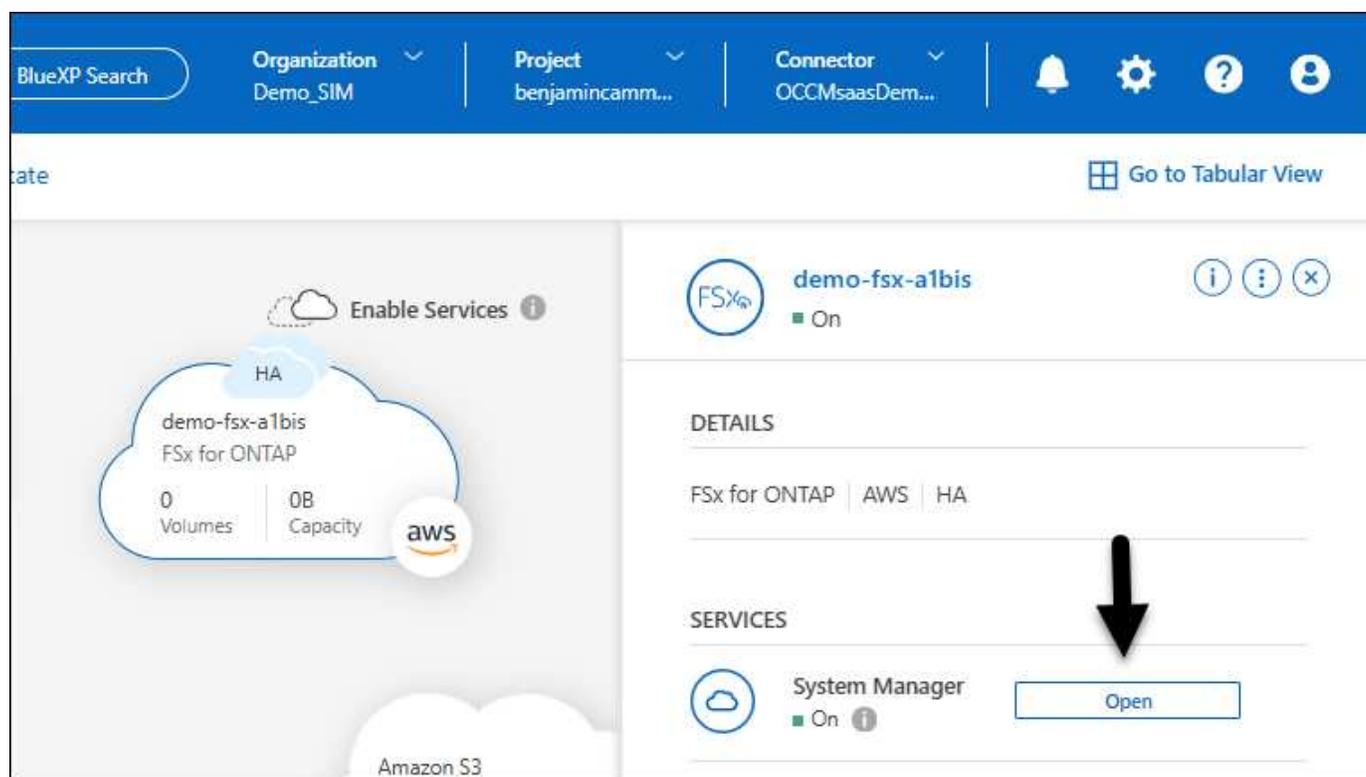
## 2024年11月11日

### FSx for ONTAPはBlueXP ワークロード工場のストレージと統合

ボリュームの追加、ファイルシステムの容量の拡張、Storage VMの管理など、FSx for ONTAPのファイルシステム管理タスクは、NetAppとAmazon FSx for NetApp ONTAPが提供する新しいサービスであるBlueXP ワークロード工場で管理されるようになりました。以前と同様に、既存のクレデンシャルと権限を使用できます。違いは、BlueXP ワークロードファクトリでファイルシステムを管理できるようになったことです。BlueXP キャンバスからFSx for ONTAP作業環境を開くと、直接BlueXP ワークロード工場に移動します。

"BlueXP ワークロードファクトリでのFSx for ONTAPの機能についてご確認ください"

ONTAPシステムマネージャを使用してFSx for ONTAPファイルシステムを管理できる\_advanced view\_optionを探している場合、作業環境を選択すると、BlueXP キャンバスにそのオプションが表示されるようになりました。



オプションが表示されます。"]

## 2023年7月30日

## 3つのリージョンを追加サポート

Amazon FSx for NetApp ONTAPファイルシステムは、ヨーロッパ（チューリッヒ）、ヨーロッパ（スペイン）、アジア太平洋（ハイデラバード）の3つの新しいAWSリージョンで作成できるようになりました。

を参照してください ["Amazon FSx for NetApp ONTAPは、さらに3つのリージョンで提供が開始されました。"](#) 詳細については、

## 2023年7月2日

### Storage VMを追加してください

BlueXP を使用してAmazon FSx for NetApp ONTAPファイルシステムにStorage VMを追加できるようになりました。

[機会] タブが [マイ資産] \*\*になりました。

- My Opportunities タブが My estate \*\*になりました。ドキュメントが更新され、新しい名前が反映されません。

## 2023年6月4日

### メンテナンス時間の開始時間

の場合は["作業環境の作成"](#)、毎週の30分のメンテナンス時間の開始時間を指定して、メンテナンスが重要なビジネスアクティビティと競合しないようにすることができます。

### FlexGroupを使用したボリュームデータの分散

ボリュームを作成する際に、FlexGroupを作成してボリューム間でデータを分散することで、データの最適化を有効にすることができます。

## 2023年6月4日

### メンテナンス時間の開始時間

の場合は["作業環境の作成"](#)、毎週の30分のメンテナンス時間の開始時間を指定して、メンテナンスが重要なビジネスアクティビティと競合しないようにすることができます。

### FlexGroupを使用したボリュームデータの分散

ボリュームを作成する際に、FlexGroupを作成してボリューム間でデータを分散することで、データの最適化を有効にすることができます。

## 2023年5月7日

セキュリティグループを生成します。

作業環境を作成する際に、選択したVPC内のトラフィックのみを許可するBlueXP を設定できるようになりました"[セキュリティグループを生成します](#)"。この機能"[追加の権限が必要です](#)"。

## タグの追加または変更

必要に応じて、タグを追加および変更してボリュームを分類できます。

## 2023年4月2日

### IOPS制限の増加

IOPS制限が引き上げられ、手動または自動で最大160,000のプロビジョニングが可能になりました。

## 2023年3月5日

### ユーザインターフェースの強化

ユーザインターフェースが改善され、ドキュメントのスクリーンショットが更新されました。

## 2023年1月1日

### 自動容量管理

必要に応じて増分ストレージを追加できるようになりました"[容量の自動管理](#)"。自動容量管理では、クラスタを定期的にポーリングして需要を評価し、ストレージ容量をクラスタの最大容量の10~80%単位で自動的に拡張します。

## 2022年9月18日

### ストレージ容量とIOPSを変更します

FSx for ONTAP作業環境の作成後、いつでも使用できるようになり"[ストレージ容量とIOPSを変更します](#)"しました。

## 2022年7月31日

### \*マイエステート\*機能

以前にCloud ManagerにAWSクレデンシャルを提供していた場合、新しい\* My estate \*機能を使用すると、Cloud Managerを使用して追加および管理するFSx for ONTAPファイルシステムを自動的に検出して提案できます。[My estate]タブで、利用可能なデータサービスを確認することもできます。

["My Estateを使用してFSx for ONTAPを確認してください"](#)

## スループット容量を変更します

FSx for ONTAP作業環境の作成後、いつでも使用できるようになり["スループット容量を変更します"](#)しました。

## データをレプリケートして同期

FSx for ONTAPをソースとして、オンプレミスや他のFSx for ONTAPシステムにデータをレプリケートして同期できるようになりました。

## iSCSIボリュームの作成

Cloud Managerを使用してFSx for ONTAPでiSCSIボリュームを作成できるようになりました。

## 2022年7月3日

### 単一または複数のアベイラビリティゾーンのサポート

単一または複数のアベイラビリティゾーンHA導入モデルを選択できるようになりました。

["ONTAP 作業環境用の FSX を作成します"](#)

### GovCloudアカウント認証のサポート

AWS GovCloudアカウント認証はCloud Managerでサポートされるようになりました。

["IAM ロールを設定します"](#)

## 2022年2月27日

### IAM の役割を引き受けます

ONTAP 作業環境向け FSX を作成する場合、Cloud Manager が ONTAP 作業環境用の FSX を作成すると想定できる IAM ロールの ARN を指定する必要があります。以前は、AWS アクセスキーを指定する必要がありました。

["FSX for ONTAP のアクセス許可を設定する方法について説明します"](#)です。

## 2021年10月31日

### Cloud Manager API を使用して iSCSI ボリュームを作成

Cloud Manager API を使用して FSX for ONTAP 用の iSCSI ボリュームを作成し、作業環境で管理できます。

### ボリュームの作成時にボリュームの単位を選択します

FSx for ONTAPでボリュームを作成するときは、ボリューム単位（GiBまたはTiB）を選択できます。

## 2021 年 10 月 4 日

### Cloud Manager を使用して CIFS ボリュームを作成

Cloud Managerを使用して、FSx for ONTAPでCIFSボリュームを作成できるようになりました。

### Cloud Manager を使用してボリュームを編集

Cloud Managerを使用してFSx for ONTAPボリュームを編集できるようになりました。

## 2021 年 9 月 2 日

### Amazon FSx for NetApp ONTAP をサポートします

- ["NetApp ONTAP 対応の Amazon FSX"](#) は、NetApp ONTAP ストレージ・オペレーティング・システムを搭載したファイル・システムの起動と実行を可能にするフルマネージド・サービスです。FSX for ONTAP は、ネットアップのお客様がオンプレミスで使用しているのと同じ機能、パフォーマンス、管理機能を、ネイティブの AWS サービスの簡易性、即応性、セキュリティ、拡張性で提供します。

["Amazon FSx for NetApp ONTAP の詳細をご確認ください"](#)です。

- ONTAP 作業環境用に Cloud Manager で FSX を設定できます。

["Amazon FSx for NetApp ONTAP 作業環境を作成します"](#)です。

- AWS と Cloud Manager のコネクタを使用すると、ボリュームの作成と管理、データのレプリケート、および Data Sense や Cloud Sync などのクラウドサービス ONTAP との FSX の統合が可能です。

["Cloud Data Sense for Amazon FSx for NetApp ONTAP の利用を開始しましょう"](#)。

# はじめに

## Amazon FSx for NetApp ONTAP の詳細をご確認ください

"NetApp ONTAP 対応の Amazon FSX" は、NetApp ONTAPストレージオペレーティングシステムを基盤とするファイルシステムを起動して実行できるフルマネージドサービスです。FSX for ONTAP は、ネットアップのお客様がオンプレミスで使用しているのと同じ機能、パフォーマンス、管理機能を、ネイティブの AWS サービスの簡易性、即応性、セキュリティ、拡張性で提供します。

### BlueXP でのFSx for ONTAPの使用

BlueXP キャンバスから、FSx for ONTAP作業環境を作成および検出したり、System Managerやその他のBlueXP サービスを使用したりできます。Amazon FSx for NetApp ONTAPで実行されるFSx for ONTAPの作業環境とワークロードを管理する場合は、を使用します ["BlueXP ワークロードファクトリ"](#)。

["BlueXP でFSx for ONTAP作業環境を作成、検出する方法をご確認ください"](#)です。

### の機能

- ストレージ・デバイス'ソフトウェア'バックアップを構成または管理する必要はありません
- CIFS、iSCSI、NFSv3、NFSv4.x、"S3"およびSMB v2.0-v3.1.1の各プロトコルをサポートしています。
- 使用頻度の低い IA（ストレージ・ティア）を使用して'低コストで事実上無制限のデータ・ストレージ容量を実現します
- Oracle RAC を含むレイテンシの影響を受けやすいアプリケーションでの実行が保証されています。
- バンドル価格と従量課金制のいずれかを選択できます

### BlueXPのその他の機能

- FSx for ONTAPはBlueXP in\_standard\_modeでサポートされ、BlueXP SaaSレイヤを活用してすべての機能を提供します。\_Restricted\_modeおよび\_private\_modeはサポートされていません。

を参照してください ["BlueXPの導入モード"](#) を参照してください。

- を使用します ["BlueXP"](#) AWSのコネクタとして、ボリュームの作成と管理、データのレプリケート、FSx for ONTAPとNetAppクラウドサービス（BlueXP分類、BlueXPのコピーと同期など）の統合が可能です。
- BlueXPは、人工知能（AI）ベースのテクノロジーを使用して分類されるため、データのコンテキストを把握し、FSx for ONTAPアカウントに存在する機密データを特定するのに役立ちます。 ["詳細はこちら。"](#)
- BlueXPのコピーと同期を使用すると、クラウドやオンプレミスの任意のターゲットへのデータ移行を自動化できます。 ["詳細はこちら。"](#)

### コネクタとリンクでFSx for ONTAPのすべての機能を活用

コネクタとリンクにより、BlueXP とAmazon FSx for NetApp ONTAPの作業環境間の接続と信頼関係が確立されます。BlueXP Connectorは、クラウドまたはオンプレミスネットワークで実行されるNetAppソフトウェア

アで、リンクはAWS Lambdaを使用してNetAppコードを実行します。BlueXP の導入やFSx for ONTAP作業環境の作成にコネクタやリンクは必要ありませんが、FSx for ONTAPの機能をフルに活用するにはコネクタやリンクを使用する必要があります。

次の機能を使用するには、コネクタまたはリンクが必要です。

- FSx for ONTAPファイルシステムにインストールされているONTAPのバージョンを表示する
- システム上のiSCSIボリュームを管理します。
- ボリュームの自動拡張機能の有効化と無効化
- Snapshotポリシーの作成と管理
- ファイルシステム間でレプリケーション関係を設定し、ボリュームをレプリケートする
- バックアップ関係を設定し、ボリュームデータをクラウドストレージにバックアップ
- ファイルシステム内のボリュームのクローニング
- ONTAPから直接追加の指標を表示する（デフォルトの指標はAmazon CloudWatchで収集）
- NFSエクスポートポリシーの管理

コネクタとリンクの詳細、およびそれらを使用するタイミングについては、以下を参照してください。

- ["コネクタの詳細については、こちらをご覧ください"](#)です。
- ["リンクの詳細"](#)です。

## コスト

FSX for ONTAP アカウントは、BlueXPではなくAWSによって管理されています。を参照してください ["Amazon FSx for NetApp ONTAP スタートガイド"](#)。

AWSでのコネクタの使用と、オプションのデータサービス（BlueXPのコピーと同期、BlueXPの分類など）の使用に関連する追加コストが発生します。

## サポートされている地域

["サポート対象の Amazon リージョンを表示します。"](#)

## サポートを受ける

Amazon FSx for NetApp ONTAP は、AWSファーストパーティの解決策です。FSx for ONTAPファイルシステム、インフラ、または本サービスを使用する解決策に関する質問やテクニカルサポートの問題については、AWS管理コンソールのサポートセンターを使用してAWSに対するサポートケースをオープンしてください。「FSx for ONTAP」サービスと該当するカテゴリを選択します。AWS サポートケースの作成に必要な残りの情報を指定します。

BlueXPまたはBlueXPストレージソリューションとサービスに関する一般的な質問については'オンラインのBlueXPチャットから始めることができます

BlueXP またはBlueXP ストレージソリューションおよびサービスに固有のテクニカルサポートの問題については、BlueXP 組織レベルのシリアル番号を使用してNetAppサポートチケットを発行できます。サポートを有効にする必要が["BlueXP 組織の登録"](#)あります。

# Amazon FSx for NetApp ONTAP のクイックスタートガイド

BlueXP でAmazon FSx for NetApp ONTAPの使用を開始するには、クレデンシャルの追加、コネクタまたはリンクの作成、FSx for ONTAPファイルシステムの作成または検出を行います。

1

## "クレデンシャルと権限の追加"

FSx for ONTAPファイルシステムの作成と管理に必要な権限をBlueXP に付与するには、AWSクレデンシャルを追加する必要があります。\_automate permissions\_and\_read permissions\_のいずれかを選択できます。

2

## オプション：コネクタまたはリンクを作成する

BlueXP から一部の管理タスクを実行するには、BlueXP ConnectorまたはBlueXP ワークロードファクトリリンクが必要です。A\_connector\_は、VPCに導入してFSx for ONTAPファイルシステムを管理する仮想マシンです。a\_link\_ AWS Lambdaを活用して、FSx for ONTAPファイルシステムへの信頼関係と接続を構築します。

- "FSx for ONTAPの管理にコネクタやリンクが必要なタイミングについて説明します。"
- "AWS でコネクタを作成する方法について説明します"
- "オンプレミスでコネクタを作成する方法"
- "リンクの作成方法"

3

## "FSx for ONTAP作業環境の作成と検出"

BlueXP から直接FSx for ONTAPファイルシステムを作成したり、AWS環境ですでに作成したファイルシステムを検出したりできます。

## ONTAP の FSX のアクセス許可を設定します

FSx for ONTAP作業環境を作成または管理するには、FSx for ONTAP作業環境の作成に必要な権限をBlueXPに付与するIAMロールのARNを指定して、AWSクレデンシャルをBlueXPに追加する必要があります。

### AWSクレデンシャルが必要な理由

BlueXP でFSx for ONTAP作業環境を作成および管理するには、AWSのクレデンシャルが必要です。新しいAWSクレデンシャルを作成するか、既存のBlueXP 組織にAWSクレデンシャルを追加できます。クレデンシャルを使用すると、AWSクラウド環境内のリソースとプロセスを管理するために必要な権限がBlueXP に付与されます。

クレデンシャルと権限はBlueXP ワークロードファクトリで管理されます。BlueXP Workload Factoryは、Amazon FSx for NetApp ONTAPファイルシステムを使用してワークロードを最適化できるように設計されたライフサイクル管理プラットフォームです。BlueXP では、BlueXP ワークロードファクトリと同じAWSクレデンシャルと権限のセットが使用されます。

BlueXP ユーザは、ワークロードファクトリインターフェイスを使用して、ストレージ、VMware、データベース、生成AIなどのワークロード機能を有効にしたり、ワークロードの権限を選択したりすることができます。\_ストレージ\_はワークロードファクトリのストレージ管理機能であり、FSx for ONTAPファイルシステムを作成および管理するためにクレデンシャルを有効にして追加するために必要な唯一の機能です。

## このタスクについて

BlueXP Workload FactoryでストレージからFSx for ONTAPの新しいクレデンシャルを追加する場合は、どの権限レベル (*operational mode*) で操作するかを決定する必要があります。FSx for ONTAPファイルシステムなどのAWSリソースを検出して導入するには、\_read\_or\_automate\_permissionsが必要です。BlueXP FSx for ONTAPは、\_read\_modeまたは\_automate\_modeを選択しないかぎり、\_basic\_modeで動作します。["動作モードの詳細"](#)です。

AWSの新規および既存のクレデンシャルは、BlueXP 設定>\*クレデンシャル\*ページで確認できます。

クレデンシャルは、次の2つの方法で追加できます。

- 手動：AWSアカウントにIAMポリシーとIAMロールを作成し、ワークロードファクトリにクレデンシャルを追加します。
- 自動的に:権限に関する最小限の情報を取得し、CloudFormationスタックを使用して資格情報のIAMポリシーと役割を作成します。

## アカウントへのクレデンシャルの手動追加

BlueXP にAWSクレデンシャルを手動で追加して、固有のワークロードの実行に使用するAWSリソースの管理に必要な権限をアカウントに付与することができます。追加するクレデンシャルの各セットには、使用するワークロード機能に基づいて1つ以上のIAMポリシーと、アカウントに割り当てられたIAMロールが含まれます。

クレデンシャルの作成には、次の3つの要素があります。

- 使用するサービスと権限レベルを選択し、AWS管理コンソールからIAMポリシーを作成します。
- AWS管理コンソールからIAMロールを作成します。
- BlueXP のワークロードで、名前を入力してクレデンシャルを追加します。

FSx for ONTAP作業環境を作成または管理するには、FSx for ONTAP作業環境の作成に必要な権限をBlueXPに付与するIAMロールのARNを指定して、AWSクレデンシャルをBlueXPに追加する必要があります。

作業を開始する前に

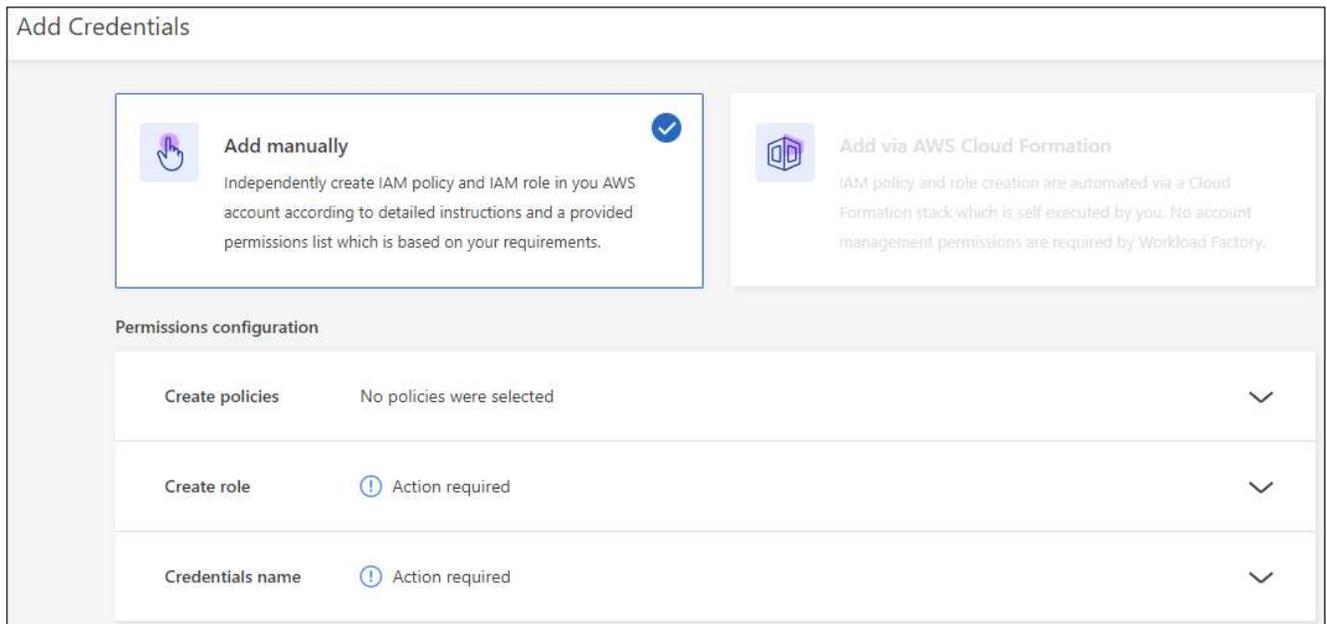
AWSアカウントにログインするにはクレデンシャルが必要です。

手順

1. BlueXP コンソールで、**[設定]\*アイコン**を選択し、**[クレデンシャル]\***を選択します。
2. **[認証情報の追加]\***を選択します。
3. Amazon Web Services \*、FSx for ONTAP \*、Next \*の順に選択します。

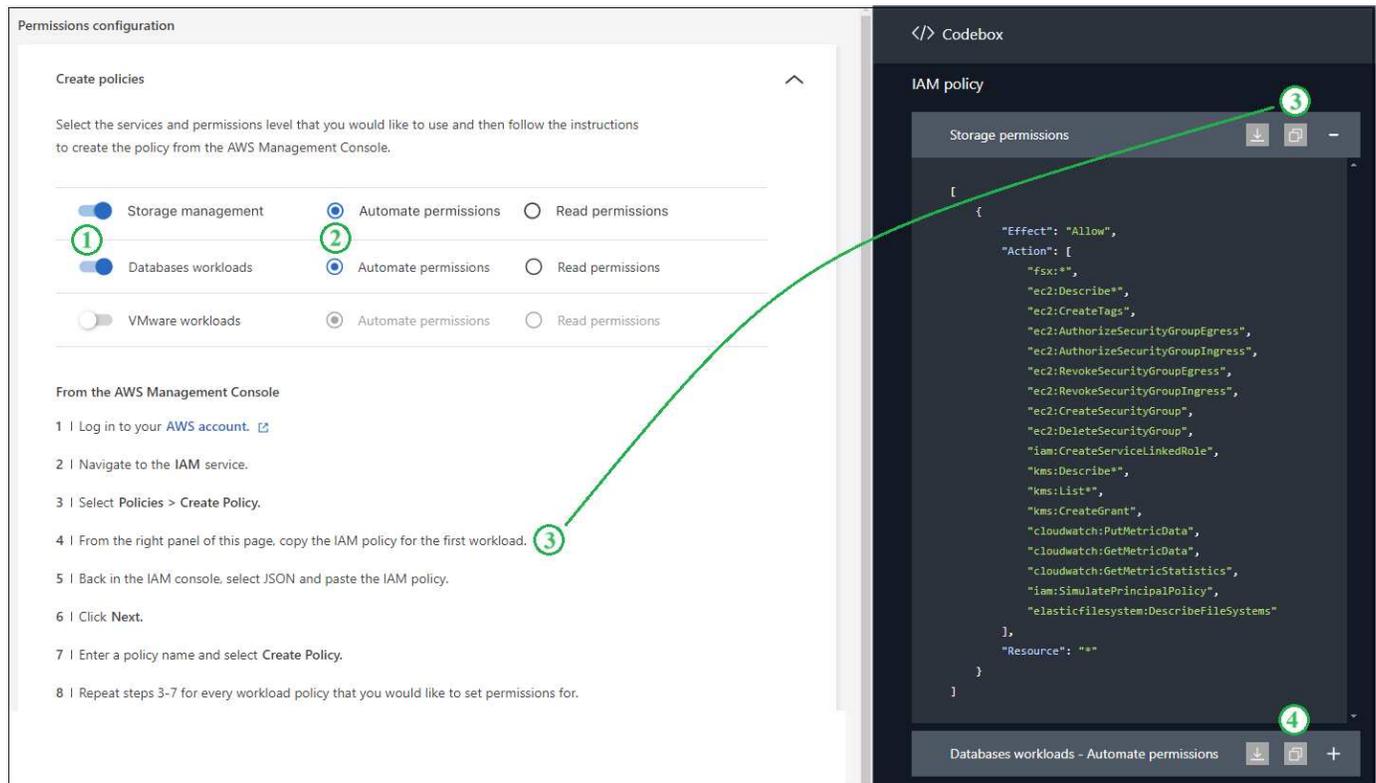
これで、BlueXP ワークロードファクトリの**\*[クレデンシャルの追加]\***ページが表示されました。

4. **[手動で追加]\***を選択し、次の手順に従って\_Permissions configuration\_の3つのセクションに記入します。



### 手順1：ワークロードの機能を選択し、IAMポリシーを作成する

このセクションでは、これらのクレデンシャルの一部として管理できるワークロード機能のタイプと、各ワークロードに対して有効にする権限を選択します。選択した各ワークロードのポリシー権限をCodeboxからコピーし、AWSアカウント内のAWS管理コンソールに追加してポリシーを作成する必要があります。



### 手順

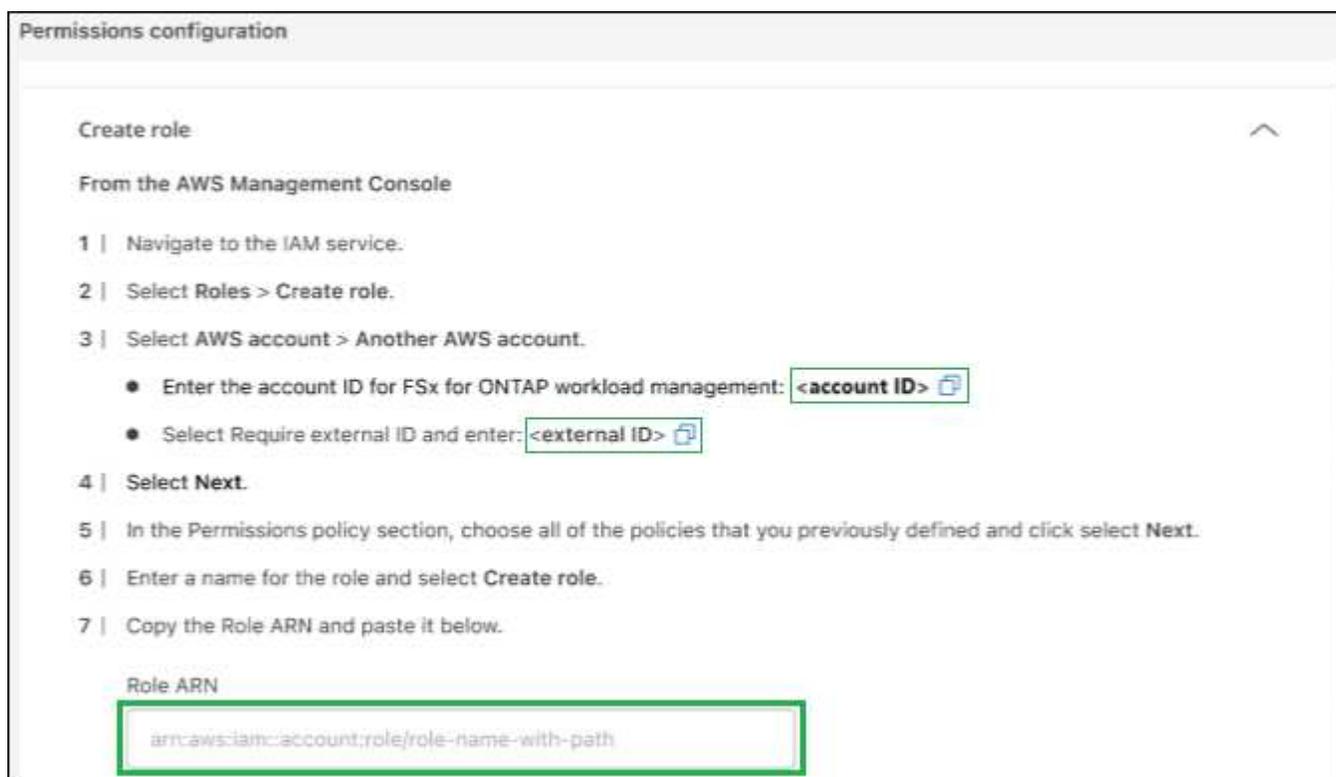
1. セクションで、これらのクレデンシャルに含めるワークロード機能をそれぞれ有効にします。ファイルシステムを作成および管理するには、[ストレージ]\*を有効にします。

あとから機能を追加できるので、導入と管理が必要なワークロードを選択するだけです。

2. 権限レベル（自動化または読み取り）を選択できるワークロード機能については、これらのクレデンシャルで使用できる権限のタイプを選択します。"権限（運用モードとも呼ばれます）について説明します。"です。
3. [コードボックス]ウィンドウで、最初のIAMポリシーの権限をコピーします。
4. 別のブラウザウィンドウを開き、AWS管理コンソールでAWSアカウントにログインします。
5. IAMサービスを開き、\* Policies > Create Policy \*を選択します。
6. ファイルタイプとしてJSONを選択し、手順3でコピーした権限を貼り付けて\* Next \*を選択します。
7. ポリシーの名前を入力し、\*[ポリシーの作成]\*を選択します。
8. 手順1で複数のワークロード機能を選択した場合は、これらの手順を繰り返して、ワークロード権限のセットごとにポリシーを作成します。

## 手順2：ポリシーを使用するIAMロールを作成する

このセクションでは、作成した権限とポリシーが含まれているとWorkload Factoryが想定するIAMロールを設定します。



Permissions configuration

Create role

From the AWS Management Console

- 1 | Navigate to the IAM service.
- 2 | Select Roles > Create role.
- 3 | Select AWS account > Another AWS account.
  - Enter the account ID for FSx for ONTAP workload management: <account ID>
  - Select Require external ID and enter: <external ID>
- 4 | Select Next.
- 5 | In the Permissions policy section, choose all of the policies that you previously defined and click select Next.
- 6 | Enter a name for the role and select Create role.
- 7 | Copy the Role ARN and paste it below.

Role ARN

```
arn:aws:iam::account:role/role-name-with-path
```

## 手順

1. AWS管理コンソールで、\*[Roles]>[Create Role]\*を選択します。
2. 信頼されるエンティティのタイプ \* で、\* AWS アカウント \* を選択します。
  - a. 別のAWSアカウント\*を選択し、BlueXP ワークロードファクトリのユーザインターフェイスからFSx for ONTAPワークロード管理のアカウントIDをコピーして貼り付けます。
  - b. [Required external ID]\*を選択し、BlueXP ワークロードのユーザインターフェイスから外部IDをコピーして貼り付けます。

3. 「\*次へ\*」を選択します。
4. [アクセス許可ポリシー]セクションで、以前に定義したすべてのポリシーを選択し、\*[次へ]\*を選択します。
5. ロールの名前を入力し、\*[ロールの作成]\*を選択します。
6. ロールARNをコピーします。
7. BlueXP Workloads Add credentialsページに戻り、\* Create role \*セクションを展開し、\_Role ARN\_フィールドにARNを貼り付けます。

手順3：名前を入力してクレデンシャルを追加

最後に、BlueXP ワークロードファクトリでクレデンシャルの名前を入力します。

手順

1. BlueXP ワークロードのクレデンシャルの追加ページで、\*クレデンシャル名\*を展開します。
2. これらのクレデンシャルに使用する名前を入力します。
3. [追加]\*を選択してクレデンシャルを作成します。

結果

クレデンシャルが作成され、[Credentials]ページで表示できます。ONTAP 作業環境で FSX を作成するときに、資格情報を使用できるようになりました。

## CloudFormationを使用してアカウントにクレデンシャルを追加する

AWS CloudFormationスタックを使用してAWSクレデンシャルをBlueXP ワークロードに追加するには、使用するワークロード機能を選択し、AWSアカウントでAWS CloudFormationスタックを起動します。CloudFormationは、選択したワークロード機能に基づいて、IAMポリシーとIAMロールを作成します。

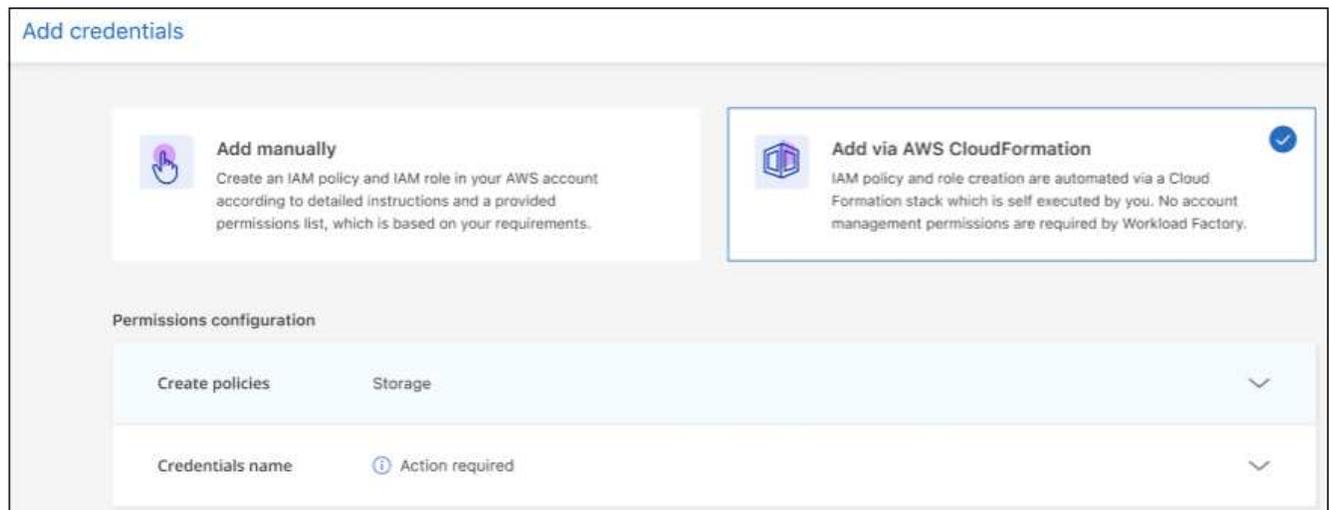
作業を開始する前に

- AWSアカウントにログインするにはクレデンシャルが必要です。
- CloudFormationスタックを使用してクレデンシャルを追加する場合は、AWSアカウントで次の権限が必要です。

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "cloudformation:CreateStack",
        "cloudformation:UpdateStack",
        "cloudformation>DeleteStack",
        "cloudformation:DescribeStacks",
        "cloudformation:DescribeStackEvents",
        "cloudformation:DescribeChangeSet",
        "cloudformation:ExecuteChangeSet",
        "cloudformation:ListStacks",
        "cloudformation:ListStackResources",
        "cloudformation:GetTemplate",
        "cloudformation:ValidateTemplate",
        "lambda:InvokeFunction",
        "iam:PassRole",
        "iam:CreateRole",
        "iam:UpdateAssumeRolePolicy",
        "iam:AttachRolePolicy",
        "iam:CreateServiceLinkedRole"
      ],
      "Resource": "*"
    }
  ]
}
```

#### 手順

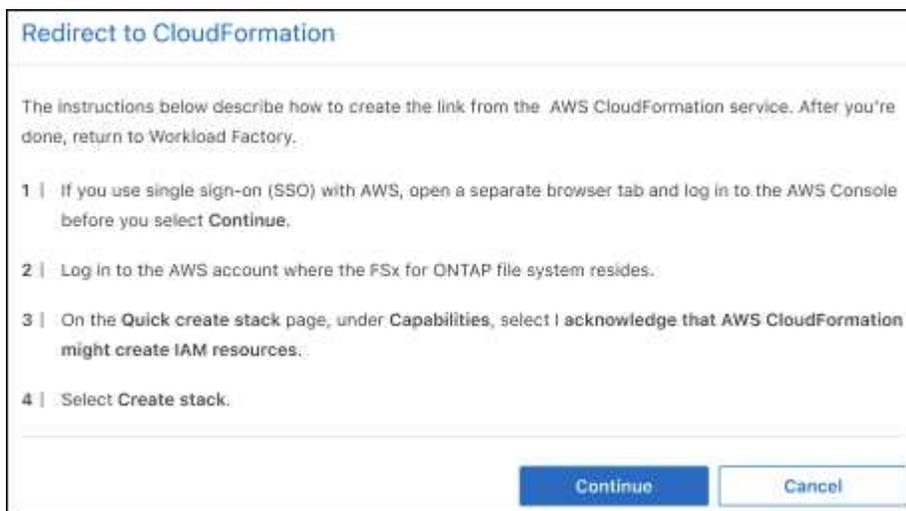
1. BlueXP コンソールで、[設定]\*アイコンを選択し、[クレデンシャル]\*を選択します。
2. [認証情報の追加]\*を選択します。
3. Amazon Web Services、**FSx for ONTAP** \*、**Next** \*の順に選択します。これで、**BlueXP** ワークロードファクトリの[クレデンシャルの追加]\*ページが表示されました。
4. [Add via AWS CloudFormation]\*を選択します。



5. [ポリシーの作成]\*で、これらの credenシヤルに含める各ワークロード機能を有効にし、各ワークロードの権限レベルを選択します。

あとから機能を追加できるので、導入と管理が必要なワークロードを選択するだけです。

6. [ credenシヤル名]\*で、これらの credenシヤルに使用する名前を入力します。
7. AWS CloudFormationから credenシヤルを追加します。
  - a. [Add]\*（または[Redirect to CloudFormation]\*を選択）を選択すると、[Redirect to CloudFormation]ページが表示されます。



- b. AWSでシングルサインオン（SSO）を使用している場合は、別のブラウザタブを開き、AWSコンソールにログインしてから\*[続行]\*を選択します。

FSx for ONTAPファイルシステムが配置されているAWSアカウントにログインする必要があります。

- c. [Redirect to CloudFormation]ページから[Continue]\*を選択します。
  - d. [Quick create stack]ページの[Capabilities]で、\*[I acknowledge that AWS CloudFormation might create IAM resources]\*を選択します。
  - e. [スタックの作成]\*を選択します。

- f. BlueXP ワークロードファクトリに戻り、メニューアイコンから[Credentials]ページを開き、新しいクレデンシャルが実行中であるか、または追加されていることを確認します。

## 結果

クレデンシャルが作成され、[Credentials]ページで表示できます。ONTAP 作業環境で FSX を作成するとき、資格情報を使用できるようになりました。

# FSx for ONTAP作業環境の作成と検出

BlueXPを使用すると'FSX for ONTAP 作業環境を作成または検出して'ボリュームや追加のデータサービスを追加および管理できます

## ONTAP 作業環境用の FSX を作成します

最初のステップは、FSx for ONTAP作業環境（ファイルシステム）を作成することです。AWS管理コンソールでFSx for ONTAPファイルシステムをすでに作成している場合は、それを実行できます"[BlueXPを使用して発見します](#)"。

このタスクについて

Storage VMはファイルシステムを作成すると作成されます。

作業を開始する前に

FSx for ONTAPファイルシステムを作成する前に、以下が必要になります。

- FSx for ONTAPファイルシステムの作成に必要な権限をWorkload Factoryに付与するIAMロールのARN。  
。"[AWSアカウントに権限を付与する方法を確認する](#)"です。
- ONTAP インスタンスの FSX を作成する場所のリージョンおよび VPC 情報。

## FSx for ONTAPファイルシステムの作成

FSx for ONTAPファイルシステムは、\_Quick create\_or\_Advanced create\_を使用して作成できます。Codeboxで利用可能なREST API、CloudFormation、Terraformの各ツールを使用することもできます。"[Codeboxを使用して自動化する方法](#)"です。



CodeboxからTerraformを使用すると、コピーまたはダウンロードしたコードが非表示になり、パスワードが表示され fsxadmin vsadmin ます。コードを実行するときは、パスワードを再入力する必要があります。

## クイック作成

クイック作成を使用すると、推奨されるベストプラクティス構成を使用できます。ほとんどの設定は、FSx for ONTAPファイルシステムの作成後に変更できます。

## 手順

1. BlueXP で、新しい作業環境を追加し、**[Amazon Web Services]\***を選択し、**[Add new]\* for Amazon FSx for NetApp ONTAP**を選択します。
2. **[FSx for ONTAPの作成]**ページで、**\*[クイック作成]\***を選択します。

保存されている設定をロードすることもできます。

3. **[File system general configuration]**で、次の情報を指定します。
  - a. **\*AWSクレデンシャル\***: AWSクレデンシャルを追加するか、クレデンシャルなしで続行します。クレデンシャルがない場合は、コードボックスから部分的に完了したコードをコピーしてダウンロードできます。コードは、コードを実行する前に不足している情報(資格情報など)を入力したり、特定のデータをカスタマイズしたりできるテンプレートのように使用できます。
  - b. **ファイルシステム名**: ファイルシステムの名前を入力します。
  - c. **導入トポロジ**: 導入トポロジを選択します。
    - スケールアップトポロジでは、1つのファイルシステムをデータ分散に使用し、データの増大に合わせてサイズを拡張できます。
    - スケールアウトトポロジでは、データ分散に複数のファイルシステムが使用されます。
  - d. **\*HAペア\***: HAペアの数を入力します。
    - スケールアップ環境ではHAペアを1つだけ作成できます。
    - スケールアウト環境では、2~12個のHAペアを設定できます。
  - e. **導入タイプ**: 導入タイプを選択します。
    - **単一アベイラビリティゾーン (単一アベイラビリティゾーン) の導入**: ハードウェア障害を監視し、障害発生時にインフラコンポーネントを自動的に交換することで可用性を確保します。アベイラビリティゾーン内にデータを自動的にレプリケートし、コンポーネント障害からデータを保護することで、高い耐久性を実現します。
    - **複数のアベイラビリティゾーン (マルチAZ) の導入**: アベイラビリティゾーンが使用できない場合でも、データの継続的可用性を提供します。マルチAZファイルシステムは、シングルAZファイルシステムの可用性と耐久性のすべての機能をサポートしています。Multi-AZファイルシステムは、共有ONTAPファイルデータの高可用性を必要とし、複数のアベイラビリティゾーンにわたるレプリケーション機能を備えたストレージを必要とする、ビジネスクリティカルな本番ワークロード向けに設計されています。
  - f. **タグ**: オプションで、最大50個のタグを追加できます。
4. の**[リージョンとVPC]\***フィールドで、ファイルシステムのリージョンとVPCを選択します。
5. **[ファイルシステムの詳細]\***で、次の情報を入力します。
  - a. **\*SSDストレージ容量\***: ストレージ容量を入力し、ストレージ容量の単位を選択します。
  - b. **\*ONTAPクレデンシャル\***: ONTAPのユーザ名とパスワードを入力します。
  - c. **\*SMB / CIFSのセットアップ\***: オプション。SMB / CIFSプロトコルを使用してボリュームにア

クセスする場合は、ファイルシステムの作成時にStorage VMのActive Directoryを設定する必要があります。このファイルシステム用に作成されるStorage VMに関する以下の詳細を指定してください。

- i. 参加する**Active Directory**ドメイン：Active Directoryの完全修飾ドメイン名（FQDN）を入力します。
- ii. \* DNS IPアドレス\*：DNS IPアドレスをカンマで区切って3つまで入力します。
- iii. \* SMBサーバのNetBIOS名\*：Storage VM用に作成するActive DirectoryコンピュータオブジェクトのSMBサーバのNetBIOS名を入力します。これは、Active Directory内のこのStorage VMの名前です。
- iv. ユーザー名：既存のActive Directory内のサービスアカウントのユーザー名を入力します。  
  
ドメインのプレフィックスまたはサフィックスは含めないでください。の場合はEXAMPLE\ADMIN、を使用し`ADMIN`ます。
- v. パスワード：サービスアカウントのパスワードを入力します。
- vi. 組織単位：必要に応じて、FSx for ONTAPのコンピュータアカウントを作成する組織単位の名前を入力します。OUは、ファイルシステムに参加する組織単位の識別パス名です。
- vii. 委任管理者グループ:必要に応じて、ファイルシステムを管理できるActive Directory内のグループの名前を入力します。

AWS Managed Microsoft ADを使用している場合は、AWS Delegated FSx Administrators、AWS Delegated Administratorsなどのグループ、またはOUに権限を委譲されたカスタムグループを指定する必要があります。

自己管理型ADに参加する場合は、AD内のグループ名を使用します。デフォルトのグループはDomain Admins。

6. [Summary]\*を開き、定義した構成を確認します。必要に応じて、ファイルシステムを保存または作成する前に、この時点で任意の設定を変更できます。
7. ファイルシステムを保存または作成します。

## 結果

ファイルシステムを作成した場合は、BlueXP のキャンバスにFSx for ONTAP構成が表示されます。BlueXP ワークロードファクトリを使用して、FSx for ONTAP作業環境に移行できるようになりました"[ボリュームの追加](#)"。

## 高度な作成

Advanced createでは、可用性、セキュリティ、バックアップ、メンテナンスなど、すべての構成オプションを設定できます。

## 手順

1. BlueXP で、新しい作業環境を追加し、**[Amazon Web Services]\***を選択し、[Add new]\* for Amazon FSx for NetApp ONTAPを選択します。
2. [FSx for ONTAPの作成]ページで、\*[Advanced create]\*を選択します。

保存されている設定をロードすることもできます。

3. [File system general configuration]で、次の情報を指定します。

- a. \* AWSクレデンシャル\* : Workload FactoryにAWSクレデンシャルを追加する場合、またはクレデンシャルなしで続行する場合に選択します。
  - b. ファイルシステム名 : ファイルシステムの名前を入力します。
  - c. 導入トポロジ:導入トポロジを選択します。
    - スケールアップトポロジでは、1つのファイルシステムをデータ分散に使用し、データの増大に合わせてサイズを拡張できます。
    - スケールアウトトポロジでは、データ分散に複数のファイルシステムが使用されます。
  - d. \* HAペア\* : HAペアの数を入力します。
    - スケールアップ環境ではHAペアを1つだけ作成できます。
    - スケールアウト環境では、2~12個のHAペアを設定できます。
  - e. 導入タイプ : 導入タイプを選択します。
    - 単一アベイラビリティゾーン (単一アベイラビリティゾーン) の導入 : ハードウェア障害を監視し、障害発生時にインフラコンポーネントを自動的に交換することで可用性を確保します。アベイラビリティゾーン内にデータを自動的にレプリケートし、コンポーネント障害からデータを保護することで、高い耐久性を実現します。
    - 複数のアベイラビリティゾーン (マルチAZ) の導入 : アベイラビリティゾーンが使用できない場合でも、データの継続的可用性を提供します。マルチAZファイルシステムは、シングルAZファイルシステムの可用性と耐久性のすべての機能をサポートしています。Multi-AZファイルシステムは、共有ONTAPファイルデータの高可用性を必要とし、複数のアベイラビリティゾーンにわたるレプリケーション機能を備えたストレージを必要とする、ビジネスクリティカルな本番ワークロード向けに設計されています。
  - f. タグ:オプションで、最大50個のタグを追加できます。
4. [ネットワークとセキュリティ]で、次の情報を入力します。
- a. \* リージョンとVPC \* : ファイルシステムのリージョンとVPCを選択します。
  - b. セキュリティグループ : 既存のセキュリティグループを作成または使用します。
  - c. アベイラビリティゾーン : アベイラビリティゾーンとサブネットを選択します。
    - クラスタ構成ノード1 : アベイラビリティゾーンとサブネットを選択します。
    - クラスタ構成ノード2 : アベイラビリティゾーンとサブネットを選択します。
  - d. \* VPCルートテーブル\* : VPCルートテーブルを選択して、ボリュームへのクライアントアクセスを有効にします。
  - e. エンドポイントIPアドレス範囲 : **[Floating IP address range outside your VPC]**\*または[Enter an IP address range]\*を選択し、IPアドレス範囲を入力します。
  - f. 暗号化 : ドロップダウンから暗号化キー名を選択します。
5. [File system details]で、次の情報を入力します。
- a. \* SSDストレージ容量\* : ストレージ容量を入力し、ストレージ容量の単位を選択します。
  - b. **[Provisioned IOPS]** : **[Automatic]**\*または[User-Provisioned]\*を選択します。
  - c. \* HAペアあたりのスループット容量\* : HAペアあたりのスループット容量を選択します。
  - d. \* ONTAPクレデンシャル\* : ONTAPのユーザ名とパスワードを入力します。

- e. \* Storage VMクレデンシャル\*：ユーザ名を入力します。このファイルシステムに固有のパスワードを指定することも、ONTAPクレデンシャルに入力したパスワードと同じパスワードを使用することもできます。
- f. \* SMB / CIFSのセットアップ\*：オプション。SMB / CIFSプロトコルを使用してボリュームにアクセスする場合は、ファイルシステムの作成時にStorage VMのActive Directoryを設定する必要があります。このファイルシステム用に作成されるStorage VMに関する以下の詳細を指定してください。
  - i. 参加する**Active Directory**ドメイン：Active Directoryの完全修飾ドメイン名（FQDN）を入力します。
  - ii. \* DNS IPアドレス\*：DNS IPアドレスをカンマで区切って3つまで入力します。
  - iii. \* SMBサーバのNetBIOS名\*：Storage VM用に作成するActive DirectoryコンピュータオブジェクトのSMBサーバのNetBIOS名を入力します。これは、Active Directory内のこのStorage VMの名前です。
  - iv. ユーザー名：既存のActive Directory内のサービスアカウントのユーザー名を入力します。

ドメインのプレフィックスまたはサフィックスは含めないでください。の場合はEXAMPLE\ADMIN、を使用し`ADMIN`ます。
  - v. パスワード：サービスアカウントのパスワードを入力します。
  - vi. 組織単位：必要に応じて、FSx for ONTAPのコンピュータアカウントを作成する組織単位の名前を入力します。OUは、ファイルシステムに参加する組織単位の識別パス名です。
  - vii. 委任管理者グループ:必要に応じて、ファイルシステムを管理できるActive Directory内のグループの名前を入力します。

AWS Managed Microsoft ADを使用している場合は、AWS Delegated FSx Administrators、AWS Delegated Administratorsなどのグループ、またはOUに権限を委譲されたカスタムグループを指定する必要があります。

自己管理型ADに参加する場合は、AD内のグループ名を使用します。デフォルトのグループはDomain Admins。

## 6. [Backup and maintenance]で、次の情報を入力します。

- a. \* FSx for ONTAPバックアップ\*：毎日の自動バックアップはデフォルトで有効になっています。必要に応じて無効にします。
  - i. 自動バックアップ保持期間：自動バックアップを保持する日数を入力します。
  - ii. 日次自動バックアップウィンドウ：設定なし（日次バックアップの開始時間を選択）または\*日次バックアップの開始時間を選択\*のいずれかを選択し、開始時間を指定します。
  - iii. 週次メンテナンス時間：設定なし（週次メンテナンス時間の開始時間を選択）または\*週次メンテナンス時間30分の開始時間を選択\*のいずれかを選択し、開始時間を指定します。

## 7. ファイルシステムを保存または作成します。

### 結果

ファイルシステムを作成した場合は、BlueXP のキャンバスにFSx for ONTAP構成が表示されます。BlueXP ワークロードファクトリを使用して、FSx for ONTAP作業環境に移行できるようになりました["ボリュームの追加"](#)。



ページのFSx for ONTAPのスクリーンショット。"]

## 既存の **FSX for ONTAP** ファイルシステムを検出します

以前にBlueXPにAWSのクレデンシャルを提供していた場合、\* My estate \*がBlueXPを使用して追加および管理するFSx for ONTAPファイルシステムを自動的に検出して提案します。使用可能なデータサービスを確認することもできます。

このタスクについて

FSx for ONTAPファイルシステムは、お客様または\*マイエステート\*ページを使用して検出できます [ONTAP 作業環境用の FSX](#) を作成します。

## 作業環境の追加による検出

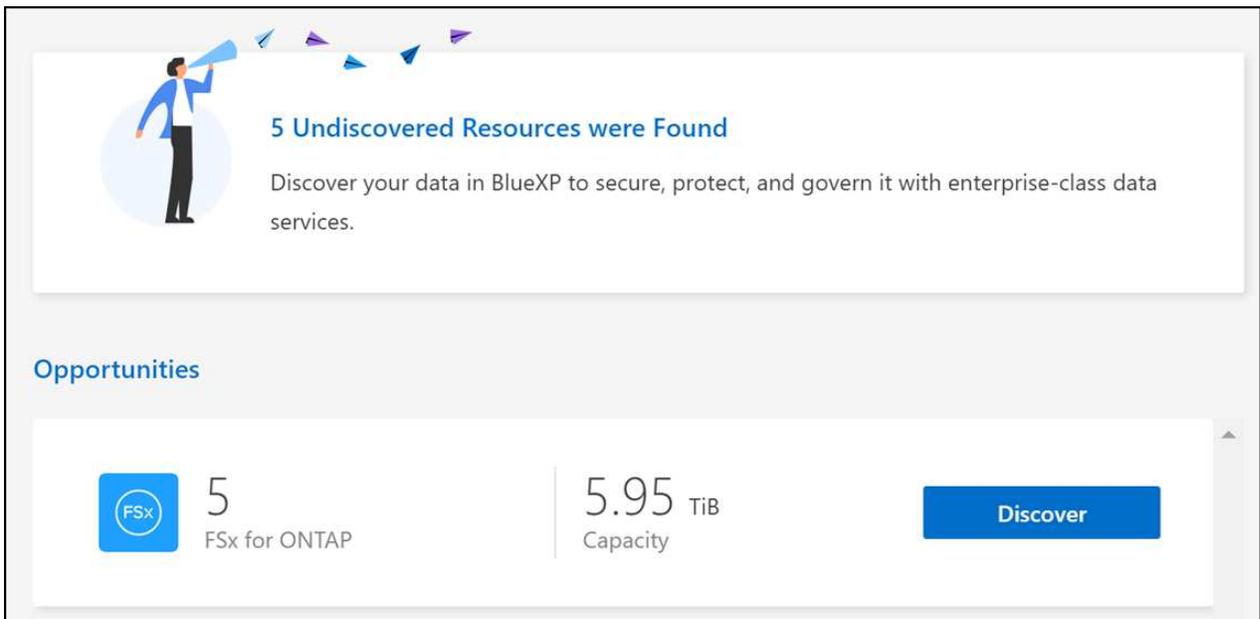
### 手順

1. BlueXP で、新しい作業環境を追加し、**[Amazon Web Services]\***を選択し、**[Discover existing]\*** for Amazon FSx for NetApp ONTAPを選択します。
2. 既存のファイルシステムを表示するクレデンシャルとリージョンを選択します。
3. 1つ以上のファイルシステムを選択し、**\*[検出]\***を選択してキャンバスに追加します。

### **<strong> My estate </strong>**ページを使用して検出

### 手順

1. BlueXP で、**\*マイエステート\*タブ**を選択します。
2. ONTAP ファイルシステムで検出されたFSXの数が表示されます。**[検出]\***を選択します。



3. 1つ以上のファイルシステムを選択し、**\*[検出]\***を選択してキャンバスに追加します。

- 名前が指定されていないクラスタを選択すると、クラスタの名前を入力するよう求めるプロンプトが表示されます。
- BlueXPでONTAP ファイルシステム用のFSXを管理するために必要な資格情報を持たないクラスタを選択すると、必要な権限を持つ資格情報を選択するよう求めるプロンプトが表示されます。

## 結果

検出されたFSx for ONTAP ファイルシステムがキャンバスに表示されます。FSx for ONTAP作業環境に移行し、BlueXP ワークロードのストレージを使用してFSx for ONTAPファイルシステムを管理できるようになりまし**"ボリュームの追加"**た。



HA

myfsxenvironment  
FSx for ONTAP

0	0 B
Volumes	Capacity



# FSx for ONTAPファイルシステムの管理

BlueXP でFSx for ONTAP作業環境を作成または検出したら、ボリュームの作成、Storage VMの管理、データの保護、ファイルシステムの管理によってファイルシステムを管理できます。BlueXP では、バックアップとリカバリ、データの分類、データ同期などの機能を提供するデータサービスも利用できます。

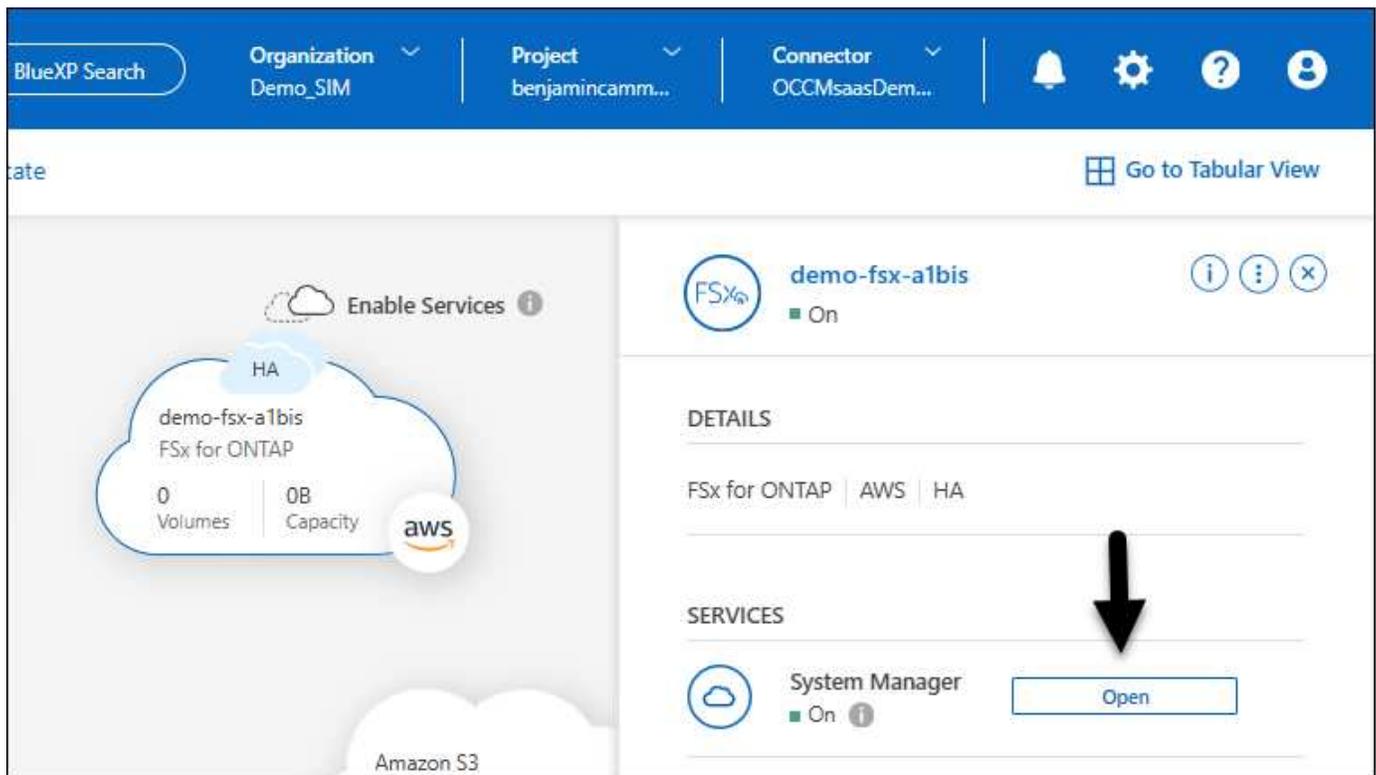
## BlueXP ワークロードファクトリを使用したファイルシステムの管理

BlueXP キャンバスからFSx for ONTAP作業環境を開くと、BlueXP ワークロードファクトリーに移動します。Workload Factoryは、Amazon FSx for NetApp ONTAPを使用して主要なワークロードの設計、セットアップ、運用に業界のベストプラクティスを使用するインテリジェントな最適化および自動化サービスです。

["BlueXP Workload Factoryを使用したファイルシステムの管理方法"](#)

## ONTAP System Managerを使用したファイルシステムの管理

FSx for ONTAPファイルシステムは、ONTAPシステムマネージャのインターフェイスを使用して、BlueXP から直接管理できます。System Managerを使用するにはコネクタが必要です。



オプションが表示されます。"]

## ファイルシステムでBlueXP データサービスを使用する

FSx for ONTAPファイルシステムでBlueXP データサービスを使用すると、データのバックアップとリカバ

り、データの転送と同期、データのスキャンと分類、データのレプリケート、アクセスの高速化やトラフィックのオフロードが可能になります。

The screenshot displays the BlueXP management console. At the top, there is a navigation bar with 'BlueXP Search', 'Organization Demo\_SIM', 'Project benjamincamm...', and 'Connector OCCMsaaSDem...'. Below this, the main content area is divided into two panels. The left panel, titled 'Enable Services', shows a cloud icon with 'demo-fsx-a1bis FSx for ONTAP' and '0 Volumes | 0B Capacity'. Below it, 'Amazon S3' is listed with '15 Buckets' and an arrow pointing to the right. At the bottom of the left panel, 'Azure Blob Storage' is listed with '51 Storage Accounts'. The right panel shows the details for 'demo-fsx-a1bis', which is 'On'. Under 'DETAILS', it lists 'FSx for ONTAP | AWS | HA'. Under 'SERVICES', there are four items: 'System Manager' (On, Open button), 'Backup and recovery' (Off, Enable button), 'Copy & sync' (On, 142.35 TiB Data synced, info icon), and 'Classification' (Off, Enable button). At the bottom right of the right panel is a blue button labeled 'Enter Working Environment'.

オプションが表示されます。"]

## データのバックアップとリカバリ

BlueXP バックアップ/リカバリサービスは、オンプレミスとクラウドの両方で、NetApp ONTAPのデータ、データベース、仮想マシンに効率的でセキュアな対費用効果の高いデータ保護を提供します。

["BlueXP のバックアップとリカバリを開始する"](#)

## データの転送と同期

BlueXPのコピーと同期は、オンプレミスとクラウドのオブジェクトストア間でNASデータを転送するためのクラウドレプリケーションおよび同期サービスです。

"BlueXP のコピーと同期を開始する"

## データのスキャンと分類

BlueXPは、組織のハイブリッドマルチクラウド全体にわたってデータをスキャンして分類できます。

"BlueXP 分類を開始する"

## データのレプリケート

BlueXP レプリケーションを使用すると、ONTAPストレージシステム間でデータをレプリケートして、クラウドまたはクラウド間でのバックアップとディザスタリカバリをサポートできます。

"BlueXP レプリケーションを開始する"

## アクセスの高速化またはトラフィックのオフロード

BlueXP ボリュームキャッシングは、書き込み可能な永続ボリュームをリモートの場所に提供します。BlueXPのボリュームキャッシュを使用すると、データへのアクセスを高速化したり、アクセス頻度の高いボリュームのトラフィックをオフロードしたりできます。

"BlueXP ボリュームのキャッシングを開始する"

# 知識とサポート

## サポートに登録します

BlueXPとそのストレージソリューションおよびサービスに固有のテクニカルサポートを受けるには、サポート登録が必要です。Cloud Volumes ONTAPシステムの主要なワークフローを有効にするには、サポート登録も必要です。

サポートに登録しても、クラウドプロバイダのファイルサービスでNetAppのサポートは有効になりません。クラウドプロバイダのファイルサービスとそのインフラ、またはサービスを使用する解決策に関連するテクニカルサポートについては、該当する製品のBlueXPドキュメントの「困ったときは」を参照してください。

- ["ONTAP 対応の Amazon FSX"](#)
- ["Azure NetApp Files の特長"](#)
- ["Cloud Volumes Service for Google Cloud"](#)

## サポート登録の概要

サポート資格を有効にする登録には、次の2つの形式があります。

- BlueXP アカウントのシリアル番号（BlueXP のサポートリソースページに記載されている20桁の960xxxxxxxxxシリアル番号）を登録します。

これは、BlueXP内のすべてのサービスのシングルサポートサブスクリプションIDとして機能します。各BlueXPアカウントレベルのサポート契約が登録されている必要があります。

- クラウドプロバイダのマーケットプレイスでのサブスクリプションに関連付けられているCloud Volumes ONTAP のシリアル番号を登録している（909201xxxxxxxxのシリアル番号）。

これらのシリアル番号は、通常PAY\_GOシリアル番号と呼ばれ、Cloud Volumes ONTAP の導入時にBlueXPによって生成されます。

両方のタイプのシリアル番号を登録することで、サポートチケットのオープンやケースの自動生成などの機能を利用できます。登録を完了するには、以下の手順でNetApp Support Site (NSS) アカウントをBlueXPに追加してください。

## NetAppサポートのためのBlueXP の登録

サポートに登録してサポート利用資格をアクティブ化するには、BlueXP 組織（またはアカウント）の1人のユーザがNetAppサポートサイトのアカウントをBlueXP ログインに関連付ける必要があります。ネットアップサポートへの登録方法は、NetApp Support Site (NSS) アカウントがあるかどうかによって異なります。

### NSSアカウントをお持ちの既存のお客様

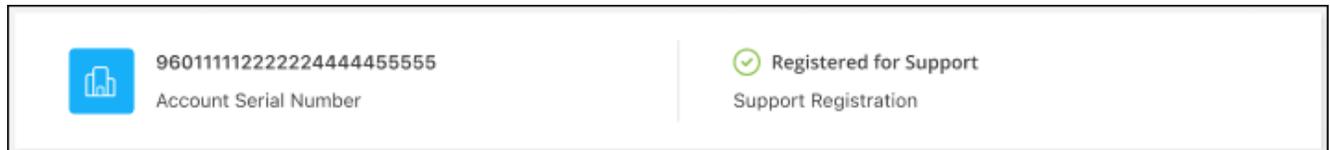
NSSアカウントをお持ちのネットアップのお客様は、BlueXPからサポートに登録するだけで済みます。

### 手順

1. BlueXPコンソールの右上で、[設定]アイコンを選択し、\*[クレデンシャル]\*を選択します。

2. [ユーザクレデンシャル]\*を選択します。
3. [NSSクレデンシャルの追加]\*を選択し、NetApp Support Site (NSS) 認証プロンプトに従います。
4. 登録プロセスが正常に完了したことを確認するには、[ヘルプ]アイコンを選択し、\*[サポート]\*を選択します。

[リソース]ページに、BlueXP 組織がサポートに登録されていることが表示されます。



他のBlueXPユーザにNetApp Support Siteアカウントが関連付けられていない場合、このサポート登録ステータスは表示されません。ただし、BlueXP 組織がサポートに登録されていないわけではありません。組織内の1人のユーザがこれらの手順を実行している限り、組織は登録されています。

### NSSアカウントを持たない既存のお客様

NetAppの既存のお客様で、ライセンスとシリアル番号は\_NO\_NSSアカウントしかお持ちでない場合は、NSSアカウントを作成してBlueXPログインに関連付ける必要があります。

#### 手順

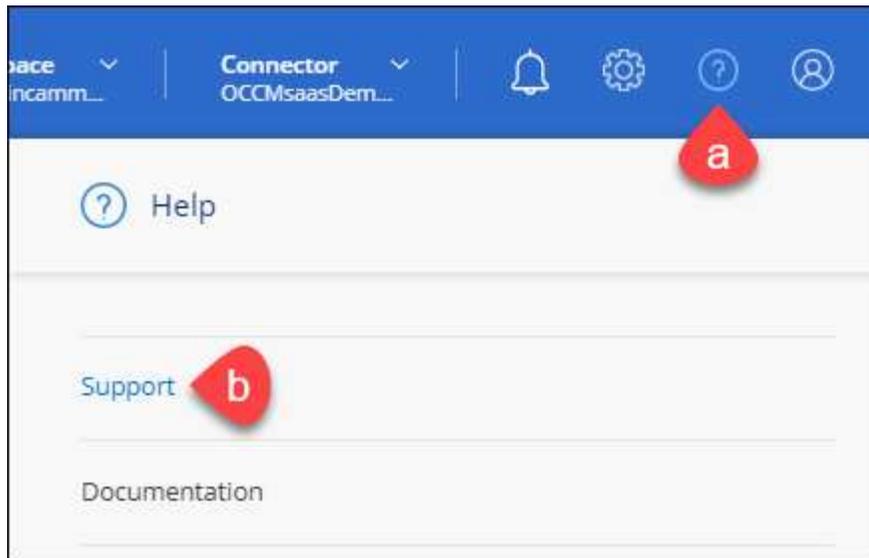
1. を実行してNetApp Support Site アカウントを作成します ["NetApp Support Site ユーザー登録フォーム"](#)
  - a. 適切なユーザレベルを選択してください。通常は\*ネットアップのお客様/エンドユーザ\*がこれに該当します。
  - b. 必ず、上記のシリアル番号フィールドに使用されているBlueXPアカウントのシリアル番号(960xxxx)をコピーしてください。これにより、アカウント処理が高速化されます。
2. の手順を実行して、新しいNSSアカウントをBlueXPログインに関連付けます [NSSアカウントをお持ちの既存のお客様](#)。

### ネットアップのソリューションを初めて導入する場合は

ネットアップ製品を初めてご利用になり、NSSアカウントをお持ちでない場合は、以下の手順に従ってください。

#### 手順

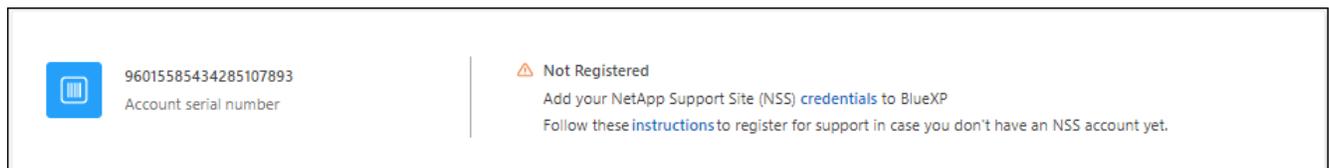
1. BlueXPコンソールの右上で、[ヘルプ]アイコンを選択し、\*[サポート]\*を選択します。



メニューのスクリーンショット

ト。サポートは最初に表示されるオプションです"]

2. サポート登録ページでアカウントIDのシリアル番号を確認します。



メニューのスクリーンショット。サポートは最初に表示されるオプションです"]

3. に移動します "ネットアップサポート登録サイト" 「ネットアップ登録のお客様ではありません」を選択します。
4. 必須フィールドに入力します（赤いアスタリスクのフィールド）。
5. [製品ライン（Product Line）]フィールドで、[ Cloud Manager \*]を選択し、該当する課金プロバイダーを選択します。
6. 上記の手順2からアカウントのシリアル番号をコピーし、セキュリティチェックを完了して、ネットアップのグローバルデータプライバシーポリシーを確認します。

この安全なトランザクションを完了するために、メールボックスに電子メールがすぐに送信されます。確認メールが数分で届かない場合は、必ずスパムフォルダを確認してください。

7. Eメールからアクションを確認します。

確認ではネットアップにリクエストが送信され、NetApp Support Site アカウントを作成することを推奨します。

8. を実行してNetApp Support Site アカウントを作成します "NetApp Support Site ユーザー登録フォーム"
  - a. 適切なユーザレベルを選択してください。通常は\*ネットアップのお客様/エンドユーザ\*がこれに該当します。
  - b. シリアル番号フィールドには、上記のアカウントのシリアル番号（960xxxx）を必ずコピーしてください。これにより処理が高速化されます。

完了後

このプロセスについては、ネットアップからご連絡ください。これは、新規ユーザ向けの1回限りのオンボーディング演習です。

NetApp Support Siteアカウントを作成したら、の順序を実行してアカウントをBlueXPログインに関連付けます [NSSアカウントをお持ちの既存のお客様](#)。

## Cloud Volumes ONTAPサポートのためにNSSクレデンシャルを関連付けます

Cloud Volumes ONTAPで次の主要なワークフローを有効にするには、NetAppサポートサイトのクレデンシャルをBlueXP 組織に関連付ける必要があります。

- 従量課金制のCloud Volumes ONTAPシステムのサポートを登録しています

お使いのシステムのサポートを有効にし、ネットアップのテクニカルサポートリソースにアクセスするには、NSS アカウントを用意する必要があります。

- お客様所有のライセンスを使用 (BYOL) する場合のCloud Volumes ONTAP の導入

ライセンスキーをBlueXPでアップロードし、購入した契約期間のサブスクリプションを有効にするには、NSSアカウントを提供する必要があります。これには、期間の更新の自動更新も含まれます。

- Cloud Volumes ONTAP ソフトウェアを最新リリースにアップグレードしています

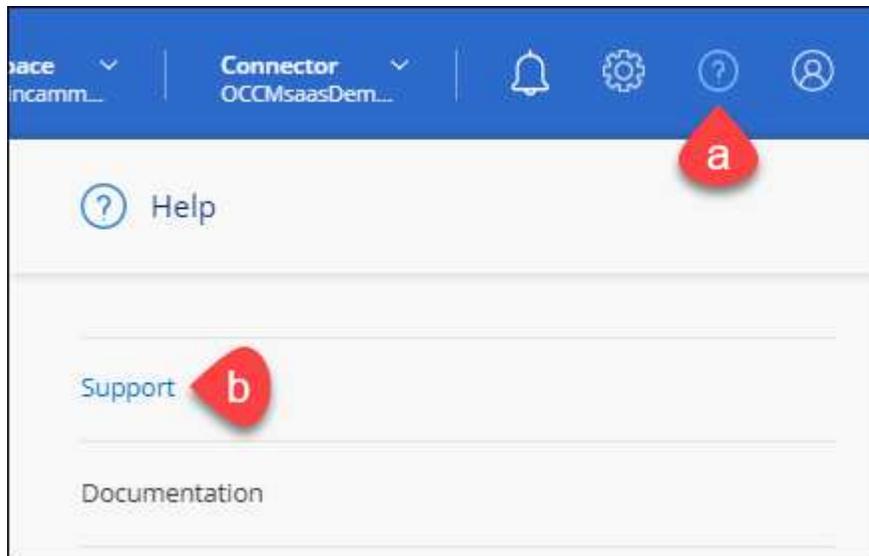
NSSクレデンシャルとBlueXP 組織の関連付けは、BlueXP ユーザログインに関連付けられたNSSアカウントとは異なります。

これらのNSSクレデンシャルは、特定のBlueXP 組織IDに関連付けられています。BlueXP 組織に属するユーザは、\*[サポート]>[NSS管理]\*からこれらのクレデンシャルにアクセスできます。

- お客様レベルのアカウントをお持ちの場合は、1つ以上のNSSアカウントを追加することもできます。
- パートナーアカウントまたはリセラーアカウントをお持ちの場合は、1つ以上のNSSアカウントを追加することはできますが、お客様レベルのアカウントと一緒に追加することはできません。

### 手順

1. BlueXPコンソールの右上で、[ヘルプ]アイコンを選択し、\*[サポート]\*を選択します。



メニューのスクリーンショット。

サポートは最初に表示されるオプションです"]

2. [NSS Management]>[Add NSS Account]\*を選択します。
3. プロンプトが表示されたら、\*続行\*を選択してMicrosoftログインページにリダイレクトします。

NetAppでは、サポートとライセンスに固有の認証サービスのIDプロバイダとしてMicrosoftエントラIDを使用します。

4. ログインページで、ネットアップサポートサイトの登録 E メールアドレスとパスワードを入力して認証プロセスを実行します。

これらのアクションにより、BlueXPはライセンスのダウンロード、ソフトウェアのアップグレード検証、および将来のサポート登録などの目的でNSSアカウントを使用できます。

次の点に注意してください。

- NSSアカウントは、お客様レベルのアカウントである必要があります（ゲストアカウントや一時アカウントではありません）。複数のお客様レベルのNSSアカウントを設定できます。
- NSSアカウントがパートナーレベルのアカウントの場合、作成できるNSSアカウントは1つだけです。お客様レベルのNSSアカウントを追加しようとすると、パートナーレベルのアカウントが存在する場合は、次のエラーメッセージが表示されます。

「別のタイプのNSSユーザーがすでに存在するため、このアカウントではNSS顧客タイプは許可されていません。」

既存のお客様レベルのNSSアカウントがあり、パートナーレベルのアカウントを追加しようとする場合も同様です。

- ログインに成功すると、ネットアップはNSSのユーザ名を保存します。

これはシステムによって生成されたIDで、電子メールにマッピングされます。[NSS Management]ページで、から電子メールを表示できます [...](#) メニュー。

- ログイン認証情報トークンを更新する必要がある場合は、の[認証情報の更新\*]オプションも使用できます [...](#) メニュー。

このオプションを使用すると、再度ログインするように求められます。これらのアカウントのトークンは90日後に期限切れになります。このことを通知する通知が投稿されます。

## ヘルプを表示します

ネットアップでは、BlueXPとそのクラウドサービスをさまざまな方法でサポートしています。ナレッジベース（KB）記事やコミュニティフォーラムなど、24時間365日利用可能な幅広いセルフサポートオプションをご用意しています。サポート登録には、Web チケット処理によるリモートテクニカルサポートが含まれます。

### クラウドプロバイダのファイルサービスのサポート

クラウドプロバイダのファイルサービスとそのインフラ、またはサービスを使用する解決策に関連するテクニカルサポートについては、該当する製品のBlueXPドキュメントの「困ったときは」を参照してください。

- ["ONTAP 対応の Amazon FSX"](#)
- ["Azure NetApp Files の特長"](#)
- ["Cloud Volumes Service for Google Cloud"](#)

BlueXPおよびそのストレージソリューションとサービスに固有のテクニカルサポートを受けるには、以下に記載されているサポートオプションを使用してください。

## セルフサポートオプションを使用します

次のオプションは、1日24時間、週7日間無料でご利用いただけます。

- [ドキュメント](#)

現在表示しているBlueXPのマニュアル。

- ["ナレッジベース"](#)

BlueXPナレッジベースで問題のトラブルシューティングに役立つ記事を検索します。

- ["コミュニティ"](#)

BlueXPコミュニティに参加して、進行中のディスカッションをフォローしたり、新しいディスカッションを作成したりできます。

## ネットアップサポートと一緒にケースを作成します

上記のセルフサポートオプションに加え、サポートを有効にしたあとで問題が発生した場合は、ネットアップサポートの担当者と相談して解決できます。

始める前に

- [ケースの作成]\*機能を使用するには、最初にNetApp Support SiteクレデンシャルをBlueXPログインに関連付ける必要があります。 ["BlueXPログインに関連付けられているクレデンシャルの管理方法について説明します"](#)。
- シリアル番号のあるONTAPシステムのケースをオープンする場合は、そのシステムのシリアル番号にNSSアカウントを関連付ける必要があります。

手順

1. BlueXPで、\*[ヘルプ]>[サポート]\*を選択します。
2. **[Resources]**ページで、**[Technical Support]**で次のいずれかのオプションを選択します。
  - a. 電話で誰かと話をしたい場合は、\*[電話]\*を選択します。netapp.comのページに移動し、電話番号が表示されます。
  - b. [ケースの作成]\*を選択して、NetAppサポートスペシャリストとのチケットをオープンします。
    - **Service:**問題 が関連付けられているサービスを選択します。たとえば、サービス内のワークフローまたは機能を備えたテクニカルサポート問題 に固有のBlueXPなどです。
    - **作業環境:** ストレージに該当する場合は、\* Cloud Volumes ONTAP \*または\*オンプレミス\*を選択し、関連する作業環境を選択します。

作業環境のリストは、サービスの上部バナーで選択したBlueXP 組織（またはアカウント）、プロジェクト（またはワークスペース）、コネクタの範囲内にあります。

- ケース優先度：ケースの優先度を選択します。優先度は、[低]、[中]、[高]、[クリティカル]のいずれかになります。

これらの優先度の詳細を確認するには、フィールド名の横にある情報アイコンの上にマウスポインタを合わせます。

- \*事象の説明\*：実行したエラーメッセージやトラブルシューティング手順など、問題の詳細な概要を入力します。
- その他のメールアドレス：この問題を他のユーザーに知らせる場合は、追加のメールアドレスを入力します。
- 添付ファイル（オプション）：一度に1つずつ、最大5つの添付ファイルをアップロードできます。

添付ファイルはファイルあたり25 MBに制限されています。サポートされているファイル拡張子は、txt、log、pdf、jpg/jpeg、rtf、doc/docx、xls/xlsx、およびcsv。

ntapitdemo 

NetApp Support Site Account

---

Service Working Environment

Select Select

Case Priority 

Low - General guidance

Issue Description

Provide detailed description of problem, applicable error messages and troubleshooting steps taken.

Additional Email Addresses (Optional) 

Type here

Attachment (Optional) Upload 

No files selected  

完了後

ポップアップにサポートケース番号が表示されます。ネットアップのサポート担当者がケースを確認し、すぐに対応させていただきます。

サポートケースの履歴を確認するには、\*[設定]>[タイムライン]\*を選択し、「サポートケースの作成」というアクションを検索します。右端のボタンをクリックすると、アクションを展開して詳細を表示できます。

ケースを作成しようとすると、次のエラーメッセージが表示される場合があります。

"選択したサービスに対してケースを作成する権限がありません"

このエラーは、NSSアカウントとそれに関連付けられているレコードの会社が、BlueXPアカウントのシリアル番号(例960xxxx) または動作環境のシリアル番号。次のいずれかのオプションを使用して、サポートを受けることができます。

- 製品内のチャットを使用します
- テクニカル以外のケースをに送信します <https://mysupport.netapp.com/site/help>

## サポートケースの管理（プレビュー）

アクティブなサポートケースと解決済みのサポートケースは、BlueXPから直接表示および管理できます。NSSアカウントと会社に関連付けられたケースを管理できます。

ケース管理はプレビューとして使用できます。今後のリリースでは、この点をさらに改良し、機能を強化する予定です。製品内のチャットでご意見をお寄せください。

次の点に注意してください。

- ページ上部のケース管理ダッシュボードには、次の2つのビューがあります。
  - 左側のビューには、指定したユーザNSSアカウントによって過去3カ月間にオープンされたケースの総数が表示されます。
  - 右側のビューには、ユーザのNSSアカウントに基づいて、過去3カ月間にオープンしたケースの総数が会社レベルで表示されます。

テーブルの結果には、選択したビューに関連するケースが反映されます。

- 目的の列を追加または削除したり、[優先度]や[ステータス]などの列の内容をフィルタリングしたりできます。他の列には、並べ替え機能だけがあります。

詳細については、以下の手順を参照してください。

- ケースごとに、ケースノートを更新したり、ステータスが「Closed」または「Pending Closed」でないケースをクローズしたりすることができます。

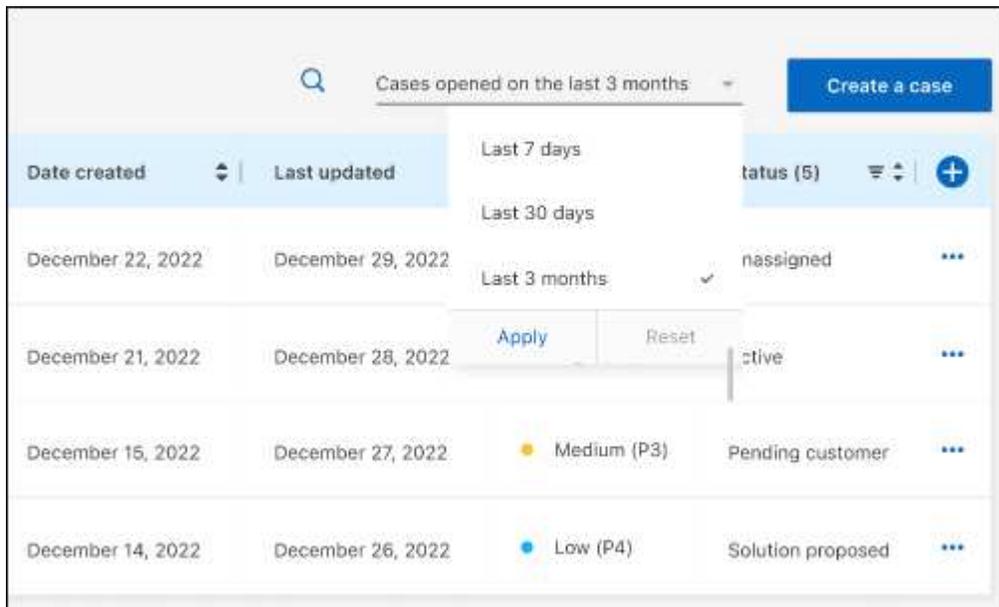
手順

1. BlueXPで、\*[ヘルプ]>[サポート]\*を選択します。
2. [ケース管理]\*を選択し、プロンプトが表示されたらNSSアカウントをBlueXPに追加します。

ケース管理\*ページには、BlueXPユーザアカウントに関連付けられたNSSアカウントに関連するオープンケースが表示されます。これは、\*NSS管理\*ページの上部に表示されるNSSアカウントと同じです。

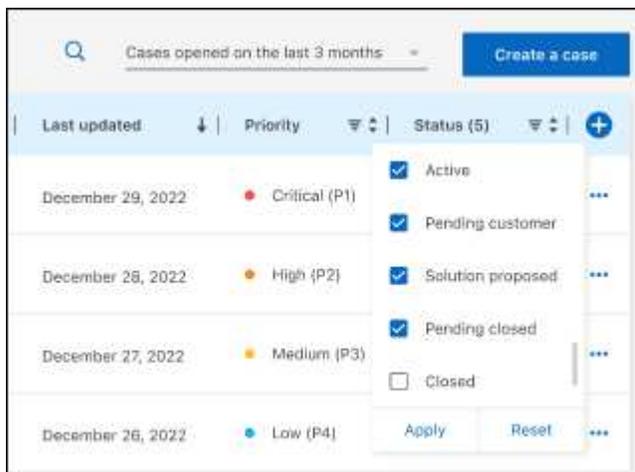
3. 必要に応じて、テーブルに表示される情報を変更します。

- [Organization's Cases]\*で[View]\*を選択すると、会社に関連付けられているすべてのケースが表示されます。
- 正確な日付範囲を選択するか、別の期間を選択して、日付範囲を変更します。



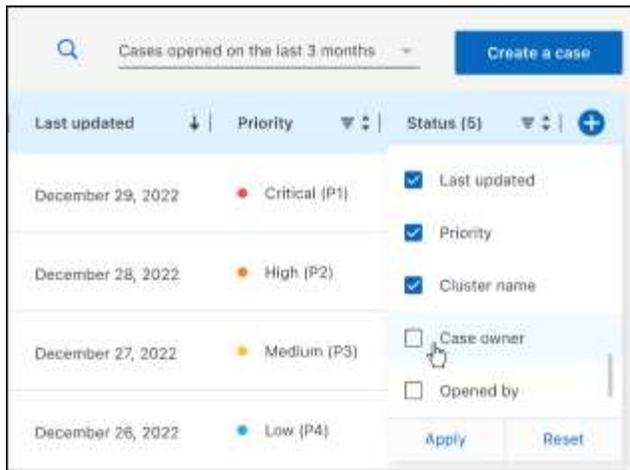
ページのテーブルの上にあるオプションのスクリーンショット。正確な日付範囲、または過去7日、30日、または3か月を選択できます。"]

- 列の内容をフィルタリングします。



列のフィルタオプションのスクリーンショット。[Active]や[Closed]など、特定のステータスに一致するケースを除外できます。"]

- テーブルに表示される列を変更するには、次に、表示する列を選択します。

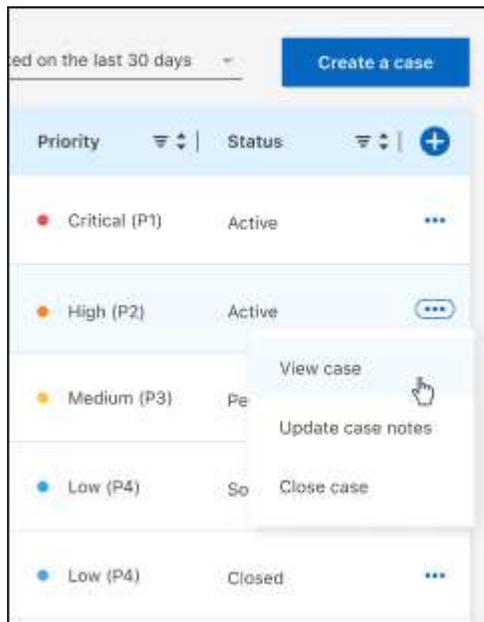


4. 既存のケースを管理するには、... 使用可能なオプションのいずれかを選択します。

- ケースの表示: 特定のケースの詳細を表示します。
- ケースノートの更新: 問題の詳細を入力するか、\*ファイルのアップロード\*を選択して最大5つのファイルを添付します。

添付ファイルはファイルあたり25 MBに制限されています。サポートされているファイル拡張子は、txt、log、pdf、jpg/jpeg、rtf、doc/docx、xls/xlsx、およびcsv。

- ケースをクローズ: ケースをクローズする理由の詳細を入力し、\*ケースをクローズ\*を選択します。



# 法的通知

著作権に関する声明、商標、特許などにアクセスできます。

## 著作権

["https://www.netapp.com/company/legal/copyright/"](https://www.netapp.com/company/legal/copyright/)

## 商標

NetApp、NetApp のロゴ、および NetApp の商標ページに記載されているマークは、NetApp, Inc. の商標です。その他の会社名および製品名は、それぞれの所有者の商標である場合があります。

["https://www.netapp.com/company/legal/trademarks/"](https://www.netapp.com/company/legal/trademarks/)

## 特許

ネットアップが所有する特許の最新リストは、次のサイトで入手できます。

<https://www.netapp.com/pdf.html?item=/media/11887-patentspage.pdf>

## プライバシーポリシー

["https://www.netapp.com/company/legal/privacy-policy/"](https://www.netapp.com/company/legal/privacy-policy/)

## オープンソース

通知ファイルには、ネットアップソフトウェアで使用されるサードパーティの著作権およびライセンスに関する情報が記載されています。

["BlueXPに関する注意事項"](#)

## 著作権に関する情報

Copyright © 2024 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

## 商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。